

## 第6編 山根V遺跡



## 第1章 既往の調査

これまで山根V遺跡では、今回の土地改良事業に伴う発掘調査を行うに当たり、周辺において発掘調査範囲を確定するための試掘調査が実施されている。本遺跡は湧水による軟弱地盤であったため試掘調査も行われておらず、今回が最初の発掘調査事例である。

平成30年9月初頭に土地改良事業の暗渠工事中に大量の縄文土器片が発見されたことが、工事業者より長野原町教育委員会に連絡があり、同月6日に長野原町教育委員会と調査担当者が現地を踏査し、さらに大量の遺物を採集した。この際出土した遺物は、表土一括として採り上げた。また、湧水に伴い、大型の礫が集中して認められたことから、縄文の水場遺構と推定されたため、翌週の10日より調査を開始することとなった。

## 第2章 調査の経過

発掘調査は、平成30年9月10日から開始し、同年9月27日に終了した。

9月10日、遺構掘削を開始する。9月13日、石組遺構の掘削、砂利層の検出を行う。9月19日、1A～6号トレンチを掘削する。9月20日、導水路、5号トレンチ拡張、7～9号トレンチを掘削する。9月21日、降雨のため調査を中止し、出土遺物の洗浄を行う。9月26日、空中写真撮影を実施する。長野原町教育委員会が完了確認を行う。9月27日、撤収作業を行い、調査を終了した。

## 第3章 基本層序

今回の発掘調査では、工事により調査区内の土層のほとんどが除去されていたため、表土層から基盤層まで基本層序を確認できるような土層は残されていなかった。遺構外は工事による影響が少ないので、2号トレンチの西壁面の土層(B3B3')と、遺構内の基本的な層序はSU06とSU09の境界付近(AA')で確認できた。この2か所の土層を中心に、各トレンチで観察された土層を対比して基本層序を復元した。

**第I層 黒褐色土**：表土である。粘性があり、しまりは弱い。礫( $\phi$  7.5～17.0cm)を含み、根や葉を多量に含む。未腐食の葉を多量に含むことから比較的最近に堆積した土層である。

**第II層 黒褐色土**：粘性があり、しまりはやや弱い。礫などがほとんど含まれない。1層が堆積する前の表土層か。

**第III層 黒褐色土**：石組遺構の埋没土である。粘性があり、しまりは弱いが、流水にさらされるV層との層理面付近ではしまりはない。礫( $\phi$  0.5～15.0cm)を含む。遺物の大半はこの土層から出土している。IV層に酷似する。AA'の3層に相当する。

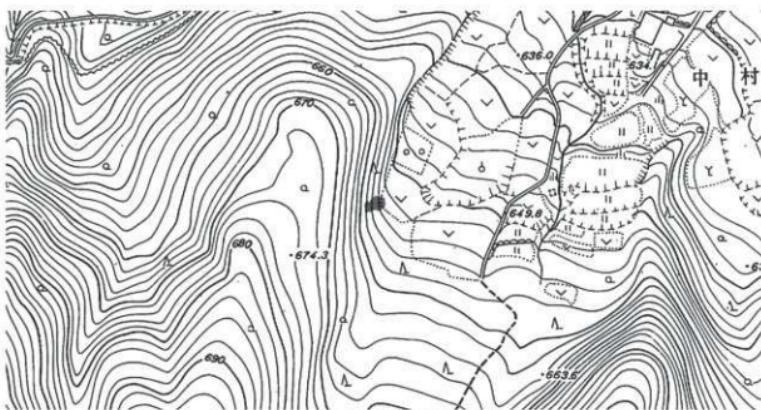
**第IV層 黒褐色土**：粘性があり、しまりは弱い。YPk ( $\phi$  0.1～1.0cm)と礫( $\phi$  0.5～15.0cm)を少量含む。III層に酷似する。石組遺構の外側にあることから、当時の地山層か。

**第V層 褐灰色砂**：石組遺構の底面の砂礫層である。砂を主体とし、土をほとんど含まないため、粘性・しまりともにない。礫( $\phi$  0.3～19.0cm)を多量に含む。石組遺構の導水路や貯水槽の上段など、主に水が流れる箇所の底面に堆積する。一種の川砂とも考えられるが、水が流れても堆積していない箇所もあるため、人為的に敷き詰められた可能性がある。遺物はこの層からも出土している。AA'、B1B3'の5層に相当する。

**第VI層 淡黄色砂**：間隙を視認できない砂のブロックであるため、粘性はなく、しまりはある。

第VII層 明黄褐色粘土：粘性があり、しまりはやや弱い。YPk ( $\phi$  0.1 ~ 0.5cm) を少量含む。層序的にはVI層と同じである。

第Ⅳ層 黒色土：粘性があり、しまりはやや弱い。礫（ $\phi 0.5 \sim 35.0\text{cm}$ ）を含み、 $\text{Ypk}$ （ $\phi 0.1 \sim 2.0\text{cm}$ ）を少量含む。下位にローム新移層やローム層（礫混じり）がみられるため、いわゆる里ボク層に該当する層か。



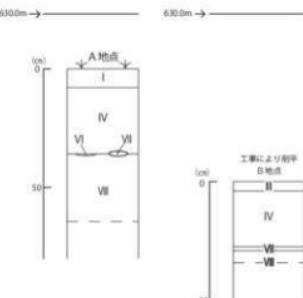
第263図 調査区位置図(1/2,500)

## 第4章 検出された遺構と遺物

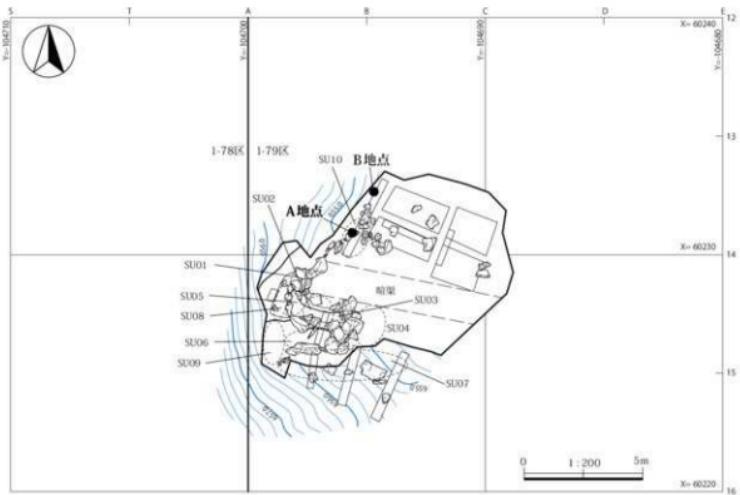
## 第1節 遺跡の概要

山根V遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字山根に所在する縄文時代の水場に関する遺跡である。遺跡は、町内では吾妻川流域地帯に属し、吾妻川の支流である深沢と白岩沢に挟まれた吾妻川右岸の中位段丘面上に立地する。遺跡のある段丘面の西部は、丸岩の山裾から北流する中村沢（旧小井戸沢）によって形成された沖積雑地形であり、遺跡は中村沢の左岸（西側）の扇央部の西端に位置している。遺跡の地形は沖積雑地形の西尾根の麓である。現況は、元来畠地であったが、西尾根の麓を北流する沢により湿地となっている。標高は 653.4m ~ 656.4 m である。

今回の発掘調査は山根V遺跡の第1次調査にあたる。調査範囲は畠地の南西隅から尾根間にかかる地形変換点にあたり、大字横壁字山根467に所在する。確認された遺構は、縄文時代中期前半の石組遺構1基(WU01)のみである。なお、地形や遺構の部位、遺物が比較的まとまって出土する箇所を10箇所、1～10号遺物集中(SU01～10)として設定した。これらは、その平面範囲を、全体図や遺構実測図、遺物出



第264図 基本土層柱状図(1/20)



第265図 調査区全体図(1/200)

土状況図に記載している。

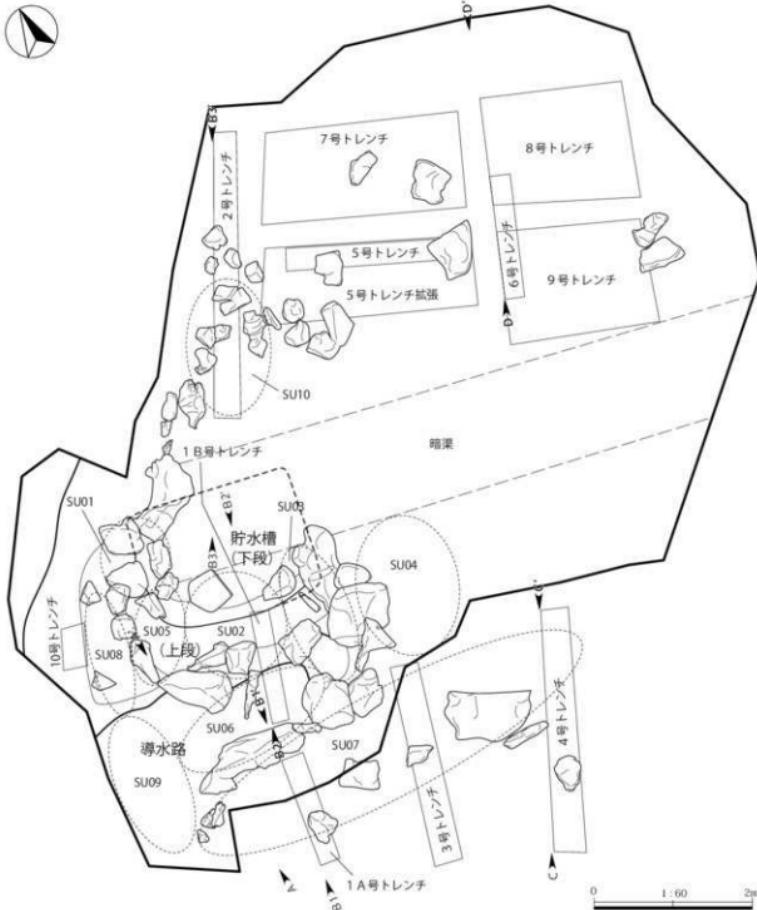
出土した遺物の種類は、縄文土器や石器、クルミの殻（核）などで、その数量はテンバコで7箱分であった。

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

### (1) 石組遺構

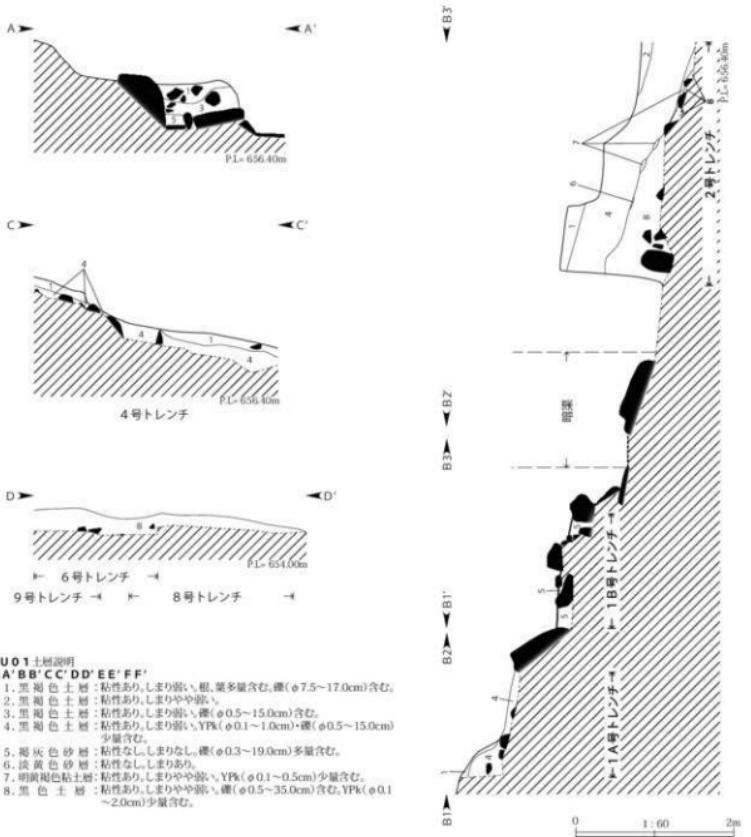
WU01 (第266～272図／第39表／PL 35～37)

**位置** 1-79 区A-14 **重複関係** なし。 **遺存状態** 貯水槽と導水路が確認された。貯水槽は北東部の壁面（石組）と底面（下段）の大半が暗渠の設置工事で壊され、導水路の西側と南側の大半は調査範囲外であるが、遺存状態は比較的良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 貯水槽の平面形は、礫の配置は円形を呈しているが、石組の内側は隅丸長方形を呈する。全体の規模は長軸 2.67 m、短軸推定 2.44 m。貯水槽の下段の平面形は隅丸長方形で、長軸 2.22 m、短軸推定 1.36 m、深さ 114cm、底面積 2.20m<sup>2</sup>。貯水槽上段は、西辺と南辺にのびる L字形を呈し、長さ 3.73 m、幅 0.74 ~ 0.45 m、深さ 57cm、底面積 1.40m<sup>2</sup>。上段と下段の比高差 57cm。導水路は、南南西方向から東南東方向へ直角に曲がるカギ形を呈し、長さ 3.88 m以上、幅推定 2.01 ~ 1.03 m、深さ 57cm、底面積 5.60m<sup>2</sup>以上。 **主軸方位** N-80°-W **壁面** 貯水槽の壁面は石組で、木組は確認されていない。壁高は下段の南壁で 11cm、上段の南壁で 24cm。とともに外傾して立ち上がる。導水路の壁面は、南壁と東壁は石組であるが、西壁は調査区外のため不明である。壁高は南壁で 60cm。外傾して立ち上がる。 **底面** 貯水槽下段の底面は、大半が暗渠の設置工事によって壊されていたが、直径約 50cm 大の方形の平坦な礫が残存しており、底面はこのような平石で敷きつめられていた可能性があり、概ね平坦である。貯水槽上段の底面は、20 × 36cm の長方形の平坦な礫や円礫で敷きつめられており、下段に向かってやや傾斜する。導水路の底面は、円礫で敷きつめられており、主に北方向に傾斜している。 **その他の施設** 貯水槽の北側は、工事により削平を受けており、調査開始の時点



第266図 WU01実測図 (1/60)

で貯水槽下段の底面とほぼ同じ高さか、低くなっていた。自然地形的にも北側が低いことから、北側に排水施設の存在が期待されたが、トレンチ掘削でも検出されなかった。石組遺構の周辺では、東部が暗渠工事による深掘りで壊されており、南東側はトレンチ掘削したが、堅果類の殻の集積場などは発見されなかった。  
**遺物検出状況** 石組遺構の内外から、遺物がある程度まとめて出土している(SU01~10)。遺物は主に貯水槽の上段(SU01~03・05)から大量に出土しており、次に導水路(SU06・09)から多く出土している。他に石組遺構の西側(SU08)や北側(SU10)から比較的多く出土しているが、東側(SU04)と南東側(SU07)からはまばらに出土している。  
**遺物** 出土遺物のうち、縄文土器20点、石器14点を図示した。縄文土器



第267図 WU01断面図(1/60)

は中期初頭の阿玉台式が大半を占め、石器は磨石や敲打痕のある磨石が大半を占める。その他にオニゲルミの核を写真掲載した。**備考** 本遺構は、水場に関わる石組遺構である。2段の貯水槽と導水路が検出されたが、排水施設や堅果類の殻の集積場などは発見されなかった。また、木組遺構も発見されなかった。帰属時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。

第5章 まとめ

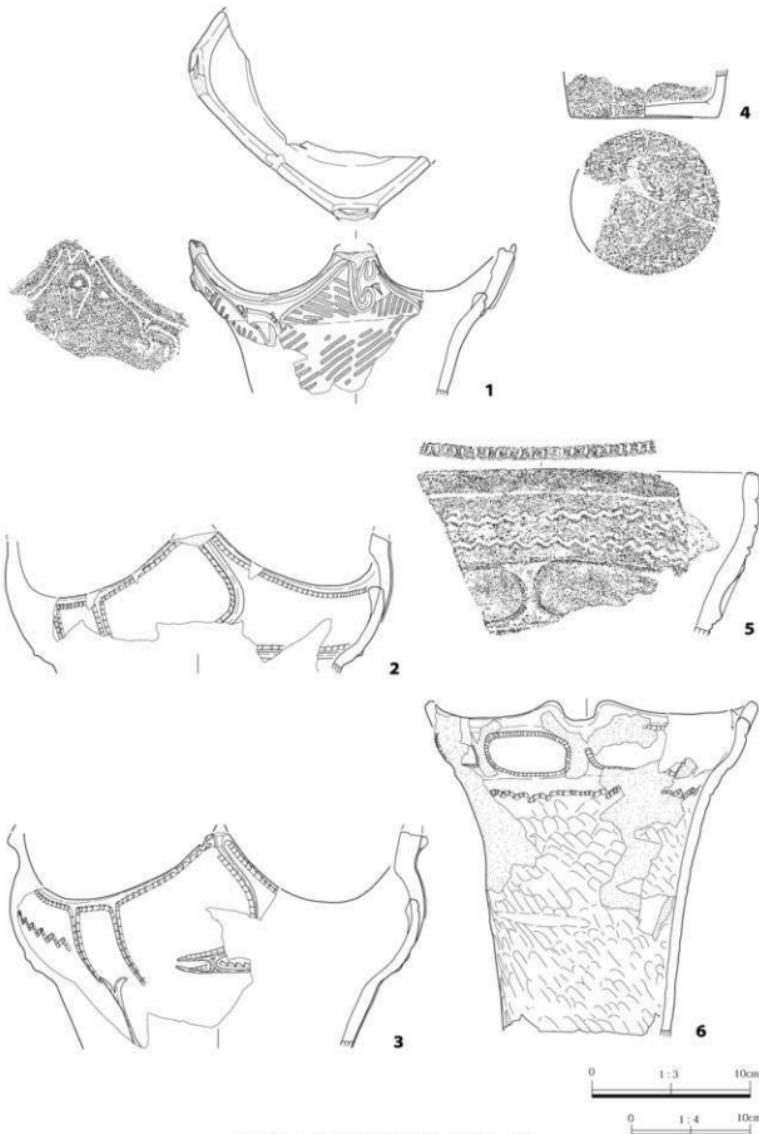
本遺跡から発見された石組造構は、導水路や段差によって水の流れが誘導されて、貯水槽の下段に水を集め  
る構造になっている。貯水槽では、木組みなどの木材は一つも発見されておらず、工事により壊されて無くなっ  
たのか、もともと無かったのかは不明である。導水路や段差部分では、水が滞れた部分には小さな凹窪（いわ  
ゆる「カニ穴」）が形成されている。



第268図 WU01遺物出土状況図(1/60)

ゆる川砂)が堆積しており、一種のろ過作用が生じているのか、川砂上の水は透明度が高くなっている。段差ではさらに水が滝のように流れ落ちるようになっており、その先で比較的大型の破片が出土したことから水を受ける容器として縄文土器が設置されていたと考えられる。排水路などの排水施設や木の実の殻の集積場は、工事やそれ以前の削平によるものか、発見されなかった。

出土した土器の大半は、縄文時代中期前葉に比定される阿玉台式土器が大半であり、Ia式からIV式まで全ての段階の阿玉台式が出土しているが、I式が大半である。他に中期初頭の五領ヶ台式直後、同じく中期前葉



第269図 WU01出土遺物実測図①(1/3・1/4)

の勝坂式や焼町類型、前期前半の関山I式や前期後半の諸磯b式などの前期の遺物が出土している。

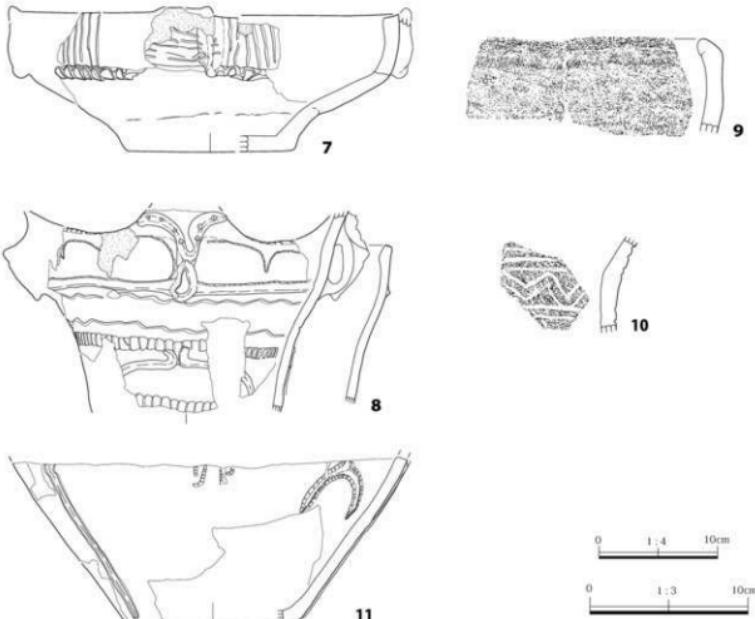
石組遺構の稼働時期は、中期前葉が主と考えられるが、前期の遺物もわずかであるが出土していることから、前期から使用されていた可能性も考慮する必要がある。

他の遺物では、凹みや敲打痕のある磨石が比較的目立って出土していることから、木の実の殻を割ったり磨り潰したりするために使用されたものと考えられる。トチの実やドングリは出土せず、クルミのみが出土している。東京都東村山市の下宅部遺跡では、中期の木組遺構でクルミが、後期の木組遺構でトチの実がアケ抜きされていたことが分かつており、中期に比定される本遺跡の石組遺構でクルミのみが出土したことと齟齬はないものと考えられる。

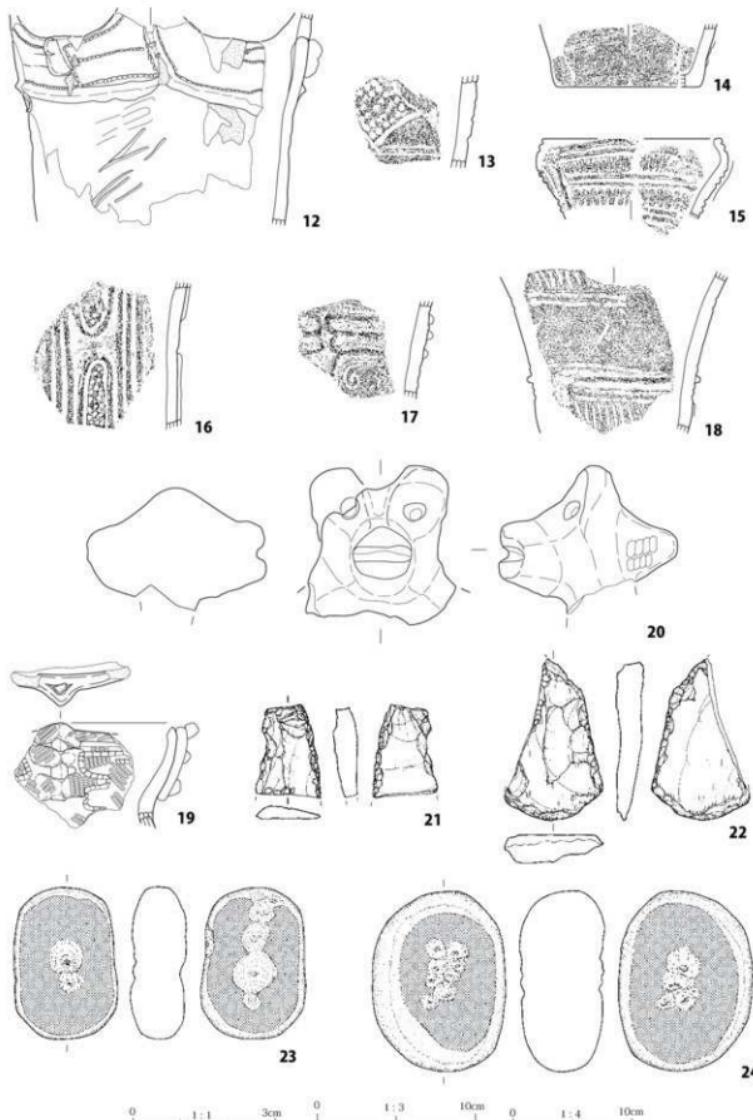
本遺跡は、周辺の試掘の成果から、遺跡の痕跡が発見されず、周辺に集落が存在しないと考えられる。

水場に関わる遺構は、県内ではみなかみ町の矢瀬遺跡（縄文時代晚期）や棟東村の茅野遺跡（縄文時代後～晚期）、渋川市の吹屋三角遺跡（縄文時代後期）、東吾妻町の唐堀遺跡（縄文時代後～晚期）、安中市の人見枝谷津遺跡（古墳時代）、安中市の中原遺跡（奈良・平安時代）などで発見されているが、町内でも西久保I遺跡（縄文時代中期中葉）、石川原遺跡（縄文時代後～晚期）や林中原I遺跡（中世～近世）で発見されている。

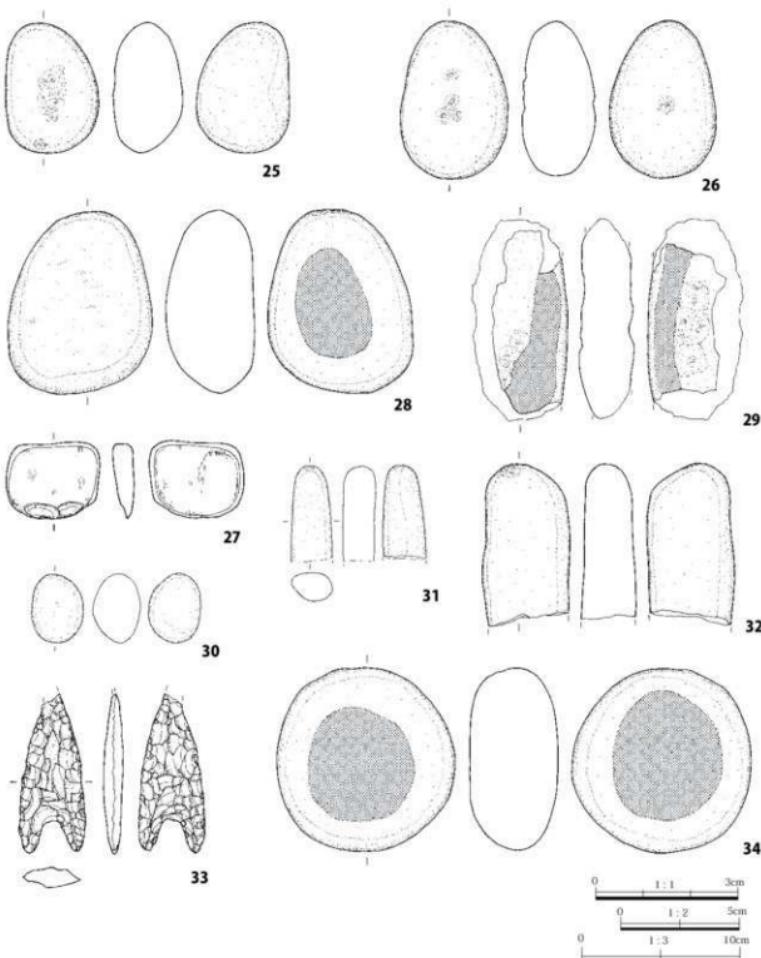
縄文時代では後期から晚期のものが多い中で、前期から中期前半である点が珍しく、近隣の西久保I遺跡が中期中葉と近い時期であり、集落外にあるという立地状況も似ていることから、その関係性が今後の課題と考えられる。



第270図 WU01出土遺物実測図②(1/3・1/4)



第271図 WU01出土遺物実測図③(1/1・1/3・1/4)



第272図 WU01出土遺物実測図④(1/1・1/2・1/3)

#### 参考文献

渡辺誠・他 2003 「縄文時代の台所・水さらし場遺構を考える—縄文人は水とどうかかわってきたか—」 青森市教育委員会

工藤雄一郎・他 2007 「東京都下北半島から出土した縄文時代後半期の植物利用に関する遺構・遺物の年代学的研究」

『植生史研究』15-1 日本植生史学会

栗島義明・他 2019 「トチの実加工場」は存在したのか?—縄文時代の木組遺構とその機能を考える— 明治大学黒耀石研究センター

第39表 山根V遺跡出土遺物観察表

測定番号	測定項目	法則基準 (mm)	法則基準 (mm)	特徴 (形態・手筋等)	地質	断土・軽質等	表面風化度 (%)	備考	
269-1	周文・深鉢	(12.4) / < 27.4 > / -	周文・深鉢	(11.8) / < 31.4 > / -	底面に凹部、上端部に凸部を有する。側面には細かな縦溝がある。下部は直線的で、上部はやや弧状の曲線である。	良好	砂質・泥質	長石・長英石	表面風化度40%程度。 W001
269-2	周文・深鉢	(16.0) / < 34.0 > / -	周文・深鉢	(11.8) / < 31.4 > / -	底面に凹部、上端部に凸部を有する。側面には細かな縦溝がある。下部は直線的で、上部はやや弧状の曲線である。	良好	砂質	黒泥	表面風化度40%程度。 W001・W001・W001
269-3	周文・深鉢	(16.0) / < 34.0 > / -	周文・深鉢	(16.0) / < 34.0 > / -	底面に凹部、上端部に凸部を有する。側面には細かな縦溝がある。下部は直線的で、上部はやや弧状の曲線である。	良好	砂質	黒泥	表面風化度20%程度。 W001・W001・W001
269-4	周文・深鉢	(4.0) / < / 12.4	周文・深鉢	(10.2) / < / -	口部は圓錐形で、底面は平らである。内側には手筋がある。中間部には手筋がある。	良好	砂質・白色粘土	赤泥・黑泥	底面風化 W001・W001
269-5	周文・深鉢	(28.3) / < / -	周文・深鉢	(28.3) / < 17.0 > / -	底面から側面にかけて斜角が大きい。圓錐形による斜面が手筋によって複数つくりかねられている。見ら れる。側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	白泥	表面風化度15%程度。 W001・W001
269-6	周文・深鉢	(12.3) / < 33.4 > / 14.0	周文・深鉢	(5.9) / < / -	内部扁平。内側には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	暗泥	表面風化度90%程度。 W001・W001
270-7	周文・深鉢	(16.0) / < 27.4 > / -	周文・深鉢	(16.0) / < 27.4 > / -	内部扁平。内側には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	灰泥	表面風化度20%程度。 W001・W001
270-8	周文・深鉢	(5.9) / < / -	周文・深鉢	(5.9) / < / -	内部扁平。内側には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	灰泥	表面風化度40%程度。 W001・W001
270-9	周文・深鉢	(5.9) / < / -	周文・深鉢	(5.9) / < / -	無く、内外ともに手筋がない。側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	白泥	表面風化度10%程度。 W001・W001
270-10	周文・深鉢	(5.2) / < / -	周文・深鉢	(5.2) / < / -	内部扁平。内側には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	灰泥	表面風化度10%程度。 W001・W001
270-11	周文・深鉢	(15.8) / < / < 16.8 >	周文・深鉢	(17.9) / < 25.6 > / -	底面は圓錐形で、側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	灰泥	表面風化度80%程度。 W001・W001
271-12	周文・深鉢	(5.8) / < / -	周文・深鉢	(5.8) / < / -	底面は圓錐形で、側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	灰泥	表面風化度40%程度。 W001・W001
271-13	周文・深鉢	(5.2) / < / < 12.0 >	周文・深鉢	(5.2) / < / < 12.0 >	底面は圓錐形で、側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	灰泥	表面風化度40%程度。 W001・W001
271-14	周文・深鉢	(6.8) / < / 15.0 > / -	周文・深鉢	(6.0) / < / -	底面は圓錐形で、側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	灰泥	表面風化度20%程度。 W001・W001
271-15	周文・深鉢	(6.0) / < / -	周文・深鉢	(6.0) / < / -	底面は圓錐形で、側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	灰泥	表面風化度40%程度。 W001・W001
271-16	周文・深鉢	(6.0) / < / -	周文・深鉢	(6.0) / < / -	底面は圓錐形で、側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	灰泥	表面風化度40%程度。 W001・W001
271-17	周文・深鉢	(13.6) / < / -	周文・深鉢	(13.6) / < / -	底面は圓錐形で、側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	灰泥	表面風化度40%程度。 W001・W001
271-18	周文・深鉢	(6.0) / < / -	周文・深鉢	(6.0) / < / -	底面は圓錐形で、側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質・泥質	灰泥	表面風化度40%程度。 W001・W001
271-19	周文・深鉢	(3.3) / < / -	周文・深鉢	(3.3) / < / -	底面は圓錐形で、側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質	白泥	表面風化度15%程度。 W001・W001
271-20	打鑿石外輪・ 打鑿石内輪	(5.5) / < 40.0 > / -	打鑿石外輪・ 打鑿石内輪	(5.5) / < 40.0 > / -	圓錐形の底面と側面を有する。側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質	赤褐色	表面風化度15%程度。 W001・W001
271-21	打鑿石外輪・ 打鑿石内輪	(10.0) / < 10.0 > / -	打鑿石外輪・ 打鑿石内輪	(10.0) / < 10.0 > / -	圓錐形の底面と側面を有する。側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質	黑色	表面風化度40%程度。 W001・W001
271-22	打鑿石外輪・ 打鑿石内輪	(9.5) / < 16.0 > / -	打鑿石外輪・ 打鑿石内輪	(9.5) / < 16.0 > / -	圓錐形の底面と側面を有する。側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質	黑色	表面風化度70%程度。 W001・W001
271-23	打鑿石外輪・ 打鑿石内輪	(9.5) / < 16.5 > / -	打鑿石外輪・ 打鑿石内輪	(9.5) / < 16.5 > / -	圓錐形の底面と側面を有する。側面には斜角と手筋がある。	良好	砂質	黑色	表面風化度70%程度。 W001・W001

271.24	37	滑石断面・ 凹石	長11.3／幅8.4／厚5.3 重量 676g。両端とも中央にくぼみを有つ。片面には多孔状の複数のくぼみが認められる。	-	800g	-	送E <sub>1</sub>	W01 8019
272.25	-	滑石断面・ 滑石+斜石	長3.2／幅5.8／厚4.3 重量 286g。両端よく削られ、片面にはよく削れ、くぼみが現る。もろ竹面のくぼみはよく削り、	-	800g	-	送E <sub>1</sub>	W01 8015
272.26	37	滑石断面・ 斜石	長10.0／幅6.7／厚4.5 重量 309g。両端よく削られ、片面にはよく削れ、くぼみが現る。	-	800g	-	送E <sub>1</sub>	W01 8012
272.27	-	滑石断面・ 斜石	長3.9／幅4.7／厚4.2 重量 55.9g。扁平で表面は滑らか。	-	60g	-	送E <sub>1</sub>	W01 8012
272.28	37	滑石断面・ 斜石	長11.4／幅3.0／厚5.6 重量 757g。両端よく削られ、片面にはよく削れがある。	-	800g	-	送E <sub>1</sub>	W01 8015
272.29	37	滑石断面・ 斜石	長12.5／幅6.0／厚3.4 重量 327g。片面に軽く削れが盛り、一部で削り落とす。	-	800g	-	送E <sub>1</sub>	W01 8016
272.30	37	滑石断面・ 斜きアガ	長4.3／幅3.3／厚3.0 重量 49.2g。片面がよく削れに削れがある。かなり小形のたんすき石。	-	800g	-	送E <sub>1</sub>	W01 8012
272.31	37	滑石断面・ 斜石	長6.0／幅2.6／厚2.0 重量 93.2g。全面削れがある。	-	60g	-	送E <sub>1</sub>	W01 8011
272.32	37	石製品・塊石	長10.2／幅5.4／厚3.3 重量 2856g。4.4使用される。片面には貫通している穴がある。	-	800g	-	送E <sub>1</sub>	W01 8016
272.33	37	滑石断面・ 石	長3.3／幅1.4／厚0.4 重量 1kg。巴。	-	40g	-	送E <sub>1</sub>	W01 接上
272.34	37	滑石断面・ 斜石	長11.5／幅11.2／厚5.6 重量 1055g。片面削れ、片面には最終段階と思われるくぼみと削れがある。	-	800g	-	送E <sub>1</sub>	W01 接上
-	37	タカラミ・楕	長3.9／幅3.0／厚0.5 重量 3.4g。オニカラミ。斜けで削れで削れした跡がある。	-	80g	50%	靴/靴	W01 8017